

Title	創立10周年にあたって
Author(s)	井島, 勉
Citation	デザイン理論. 1968, 7, p. 2-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/52526
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

創立10周年にあたって

井 島 勉

10年あまり前に、私は一つの相談を受けた。関西の諸大学のデザイン関係の教官や一部のデザイナーの方々が、美学会に入会したいが、ということであった。この人たちは、デザインのすぐれた作家でもあったが、手をたずさえてデザインに関する理論的研究を推進したいという希望である。私は、美学会にお迎えすることはたやすいが、それよりも皆さんで独自の学会を組織なさる方が直接の勉強になるのではないかと答えた。これが導火線となってやがて関西意匠学会が生まれ、昭和34年11月7日、京都の成安女子短大講堂で第1回大会が開かれた。参会した会員は200名ばかり、今は亡き重成基氏が委員長に選ばれ、私がまとめ役としての会長を仰せつかった。

それ以来10年。しだいに会員も増加し、学会は順調に育った。初めは京都教育大学に事務局が置かれ、後には京都工芸繊維大学に移されて現在に至っている。事務局の幹事諸君のお骨折りは並々ならぬものであった。

会員には、教職に就いている人ばかりでなく、産業機関に所属するデザイナーやフリーのデザイナーも少なくない。教職人といえども大部分がデザイン活動を営んでおられる人か一部の美学者である。しかしこの学会は、たんにデザイナーの情報交換や利益擁護のための組織ではない。むしろこの学会の会員としての姿勢は、デザインに関する各種の理論的研究という大目標につながっている。しかもその理論は、ときには哲学と科学に通じ、ときには実技をふまえ、

ときには歴史を洞察する多様な知識を包括するものである。そして、あらゆるデザイン活動は、自覚的にせよ無自覚的にせよ、そのような理論的見識に支えられて進展する性格をもっている。けだしデザインの分野は、造形芸術の他の分野とちがって、美意識の近代的解放に基づき、近代の生活と産業の科学との密接な関連において開花したものであるから、必然的に、その実践と理論との間にも、他の芸術分野には見られない独自の関係をひそめていることを見のがせない。理論的研究を目ざす意匠学会が、多くのデザイン実践家を中枢として組織されたことは、決して偶然ではない。この学会の機関誌は、「デザイン理論」と銘うって、年と共に巻を重ねてきた。画家による絵画学会、彫刻家による彫刻学会というようなものちがって、デザイナーによる意匠学会の使命は、ユニークであり重大であると思われる。そして、デザインや美術に関心を寄せる美学者やデザイン学者・工学者・化学者・産業人などの参加協力は、その使命の達成のために必要であり、重要な役割を演じるものというべきであろう。

もとよりデザインに含まれる領域、換言すればデザイン活動がおこなわれる場所、は多岐である。ヴィジュアル・商業・工業・建築・被服等々、のみならず現代美術の動向には、多分にデザインの思考と方法の要素を帯びていることも否めない。これらの諸領域は、事実上それぞれ固有の理論的究明の問題点を有するものであると同時に、原理的には、デザインの名においてそれらのすべてを貫ぬく共通の問題点を共有するものでもある。そればかりでなく、それらは各々独自の課題と領域を確保しながら、同一の生活空間の中に互いに絡みあい、歴史的にも社会的にも、更に美意識的にも、有機的な関連においてある。従って、意匠学会が所期の効果を高めるためには、いわば総合的に、各種領域に関する研究発表を対置したり、各種領域に通じる普遍的な研究発表を試みる大会や例会の方式のほかに、領域毎の分科会的活動をさかんにすることが望ましい。現に関西意匠学会は、年一回の大会、年数回の例会や見学会のほかに、領域別の部会を設けてそれぞれ単独の研究活動に励む計画を立て、すでに着々

と実施してきた。この方式は今後ますます拡充されていくことが期待されるのである。

以上のような経過をたどって、われわれの学会はこの10年を歩んだ。生まれるべくして生まれ、育つべくして育ち、順調に成長して基礎は十分に確立されたけれども、質的にも量的にも、一段と飛躍的に発展すべき段階を迎えているといえる。会員一同の研究成果の進展はもとよりであるが、この意義深い学会活動の恩恵が、一人でも多くのデザイン関係者に向って浸透していくことが望まれるのである。幸いにこの学会は、きわめて開放的な精神で運営されている。特定の資格制限を設けることなく、ひろく門戸を開いて、デザイナー・理論家・教育者・産業人・学生など、デザインに心を寄せるあらゆる同志の入会を歓迎している。人間の美意識を前提としないデザイン行為はあり得ず、デザインの考慮を伴わぬ近代産業はあり得ない。われわれはこの学会の学会的事業の発展が、やがてこの国の文化と産業の進展に寄与するところ多大であることを確信するものである。